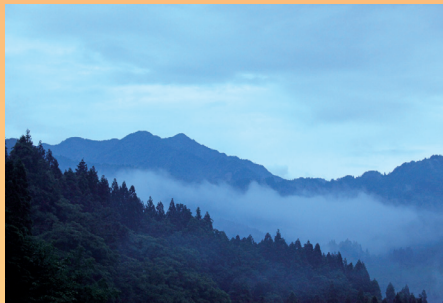


保存版

赤谷地区福祉活動計画

自然の恵みを大切に 伝統を受け継ぐ赤谷地区



写真提供：中矢 澄子 氏

赤谷地区福祉懇談会・赤谷地区自治会連合会

新発田市・社会福祉法人 新発田市社会福祉協議会

ごあいさつ



この度、新発田市と新発田市社会福祉協議会のご協力により、赤谷地区福祉活動計画を策定させていただきました。

本計画の策定に当たり、福祉懇談会や編集委員会に区長や役員、各団体等さまざまな地域組織の方々や多くの地域住民の皆様からご協力いただき、あらためて御礼申し上げます。

当地区は、新発田市の最東端に位置し、上赤谷第一区、上赤谷第2区、滝谷新田、滝谷、の4つの集落からなる中山間地域であり、自然豊かな焼峰山や景勝清水をはじめ、歴史あふれる伝統や文化に多く恵まれています。また、顔の見える関係を柱に地域行事や送迎ボランティアなど多くの地域活動に取り組んできました。

これからの赤谷地区を考えるため、昨年8月から上赤谷・滝谷・滝谷新田の各地区で福祉懇談会を開催し、大勢の方々のご参加と多くのご意見をいただきました。その各地区からいただいた様々な意見を基に、2回に亘り赤谷地区福祉懇談会としてグループでの討議を中心に話し合いを重ねてまいりました。福祉懇談会では、地域住民が主体となって協議したことで、今まで以上に情報や意見を交換し、お互いに助け合える関係が築けたと考えています。

少子高齢化や過疎化に伴う地域の担い手不足や地域行事の継続は、当地区や社会全体の問題と考えます。これらを課題としてとらえながら、一人ひとりのできること、地域や関係機関と連携して取り組むことを再認識し、今後も地域力の向上に向けて努めてまいりたいと思っております。

この福祉活動計画を地域の皆様にご覧いただくとともに、これを機会に議論を深め、実践につなげていければ幸いです。今後ともご協力宜しくお願い申し上げます。

平成29年3月

赤谷地区自治会連合会 会長 下野 勇

目 次

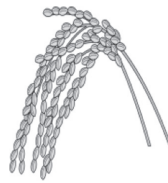
1	地域伝言板	
	(1) 赤谷地区の歴史	1
	(2) 赤谷地区の魅力を発信	2
	(3) 赤谷地区の主な年表	4
2	計画の概要	
	(1) 赤谷地区福祉活動計画とは	5
	(2) 赤谷地区福祉活動計画の目的	5
	(3) 赤谷地区福祉活動計画の推進に向けて	5
	(4) 赤谷地区福祉活動計画づくりの意義	6
3	地域の魅力と現状	
	(1) 地域の魅力について	7
	(2) 地域の現状について	7
4	福祉活動計画	
	(1) 基本理念（スローガン）	8
	(2) 基本目標	8
	(3) 計画の実現に向けて	9
5	策定方法	
	(1) 赤谷地区福祉活動計画策定団体等	11
	(2) 赤谷地区福祉活動計画策定経過	12
	(3) 赤谷地区福祉懇談会で出された意見	13
6	参考資料	
	「新発田市地域福祉（活動）計画」の基本理念と体系	16
	赤谷地区福祉懇談会回覧	18
	地域のSOS ～ご近所の見守りのヒント～	22
	便利帳	23

1 地域伝言板

水、空気、自然の恵み 歴史と文化がいっぱい 赤谷地区



主な農産物・郷土料理



米



しいたけ



栗



野郎餅

～赤谷地区は～

新発田市の最東部に位置し、上赤谷第一区、上赤谷第2区、滝谷、滝谷新田の4集落からなり、江戸時代には会津街道の宿場町として栄え、自然、歴史、文化の豊かな中山間地域です。加治川の上流、会津街道沿いにある自然豊かな山村地区。1955（昭和30）年に新発田市と合併した加治川の源泉に一番近い地区です。明治時代から石炭や鉾山石の発掘が盛んになり、人口は多い時（昭和25年頃）で4,200人まで増加しました。

(1) 赤谷地区の歴史



●●● 赤谷鉾山が栄えた頃～歴史をひもとく～ ●●●



赤谷は地下資源に恵まれ、金・銀・銅・鉄・亜鉛・鉛・石炭が埋没されていた。中でも赤谷鉄鉾はとて豊富だったため、その歴史は深い。明治26年に国の調査が行われ、伊藤内閣の時に国家事業として官営の製鉄所を作ることが決まり、大々的に発掘の準備に着手した。明治30年には九州に八幡製鉄所が作られ、鉄が最も大切な資源として本格的に開発されることになった。当時の赤谷は、資源はあっても運搬ができず、かえり見られなかった。ところが第一次世界大戦で日本の輸出もうなぎ上りで好景気により赤谷鉾山もクローズアップされ、赤谷運鉾線鉄道の計画が八幡製鉄所の工事で実現された。この頃、鉾山関係者以外は鉄道を利用することができなかつた。第一次世界大戦が終わり世界大戦好景気から日本は不況になり赤谷鉾山も中止しなければならなかつた。完成したばかりの赤谷線は大正12年無用となり「赤さび線」とも呼ばれたが、地元の代議士や赤谷村長たちの陳情の結果、無償で赤谷線は製鉄所から鉄道省にうつされ、駅の停車場も整い、旅客貨物列車として大正14年11月国鉄赤谷線が開通した。その後、戦時中も戦後も鉄鉾業は続いたが、昭和52年には採算が合わず赤谷鉾山は閉山。昭和59年3月鉄道利用者は少なくなり国鉄は廃線となった。

～市図書館の郷土資料より～

東赤谷駅は、33%（パーミル）の急勾配を登ったところにあり、国鉄の唯一のスイッチバックの終着駅だった。



赤谷線開通記念鉄道唱歌

赤谷鉾山の鉾石運搬用の赤谷運鉾線鉄道を元に、大正14年、地元住民の願いがみのり、旅客、貨物の輸送が実現したのである（大正14年11月開通記念として作成したものである）。



八 赤谷口の石垣は昔会津の関所跡
今に残りてありし日の思い出深き記念かな
九 飯豊と内の倉川は発電所に利用され沿岸四季の眺めよく
十 越後耶馬溪に耽ちざらん山水奇石を賞しつつ二里の山路辿り行き世に名も高き滝谷の温泉浴も面白や
十一 無尽宝庫の三つ山は鉄に金、銀、銅、亜鉛石炭、白土、炭、水晶、天然サイダに丸木材
十二 赤谷線の開通に地の利を得たる北浦の富力は今や東台の松の緑をいや増さん



こんな記事を発見!!

〔昭和28年朝日新聞の記事〕
「山の中の文化村」というタイトルで当時取り上げられた。耕地はわずかであるが、郡下でただ一つ国からの平衡交付金をもらわないで立派にやっつけているほど、財政的に豊かな村である。鉄道駅は3つもあり上水道も引いているという文化村である。



(2) 赤谷地区の魅力発信

●●● 伝統・文化・行事の紹介 ●●●

◆百万遍～滝谷新田に伝わる伝統行事～

700年以上前から伝わる伝統行事。百万遍とは万遍念仏の略称で念仏を100万回唱えること又は京都知恩寺の別称とも言われています。知恩寺8世善阿が流行病を治すため7日間100万遍の念仏を唱え、効果があったので後醍醐天皇から100万遍の寺号と1080珠の大念珠を賜ったという言い伝えがあります。そういった歴史から怪我や病気を神仏に頼んで治してもらおう事や村が平和である事を祈る行事として受け継がれてきました。現在では毎年3月の第一日曜日に行われています。

100万回念仏を唱えると極楽浄土に行けるといふ言い伝えもあります。大数珠を回し念仏を唱えたり、念仏踊り、大数珠を使った綱引きなど、地元の方の交流の場にもなっています。



◀修理をしながらも大切に受け継がれている14メートルの大数珠。481珠の玉は、長い間多くの人たちの手の暖かさが沁み綺麗な銜色で艶々しています。伝統の偉大さや素晴らしさを感じます。



▲実際に夜の7時頃から極寒の中、寒さをもろともせずに行っている様子。写真からもその雄姿が伺えます。

◆赤谷どんつき祭り

～赤谷集落に伝わる伝統行事～

赤谷集落に約700年前から伝わる奇祭で、厄年の男衆が裸でもみ合う勇壮な祭りです。真冬の2月の中旬、地元の神社にふんどし、はちまき、白足袋姿の男衆が神社に集まり、心身を清めて厄を祓う伝統行事で、厳寒の雪の中での裸の押し合いは熱気に溢れます。拝殿と境内を往復し、激しいもみ合いを繰り返し、祭りが最高潮に達すると神主、地元の代表者、厄年の人などが胴上げされます。

五穀豊穰、家内安全、無病息災、村中安全を祈願します。



▲どんつき祭りの当日には夕方からさいの神（どんと焼き）も行われています。

◆みんなが大好き野郎餅

野郎餅とは、すりつぶしたご飯にくるみ味噌を塗った、赤谷地区伝統の郷土料理です。かつて赤谷マタギ（猟師）が、山の恵みや天候の回復を祈願して山の神様に奉納したことから、野郎餅という名がついたと言われています。甘く香ばしく、一度食べたらやみつきとなり、赤谷地区のソウルフードとしてみんなから好まれています。



☆☆知っていますか☆☆

赤谷地区は夏もシクラメンが枯れないのです。自然の神秘がもたらす赤谷の知られざる魅力をもっと発見しましょう！！

●●● 地域の魅力の紹介 ●●●

◆赤谷には各所に天然名水が！！

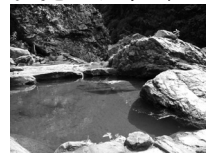
天然の清水が当地区の各所にあります。ここでは3箇所ご紹介いたします。歴史も古く今でも透き通った水がわき出ており、ペットボトルを持って汲みにくる方も多くいます。



▲戦国時代末期に上杉景勝が水を探しに槍のえをあちこち突っついたら清水が出てきたという。

◆秘湯の露天風呂「湯の平温泉」

文久年間（1860年代）に山形県米沢のマタギ（猟師）が3人で飯豊川上流へ熊狩りにきたが、そのうちの1人が過って崖下に転落し負傷しました。負傷したマタギが谷を下っていくと、1ヶ所だけ雪が融けて熱湯が湧き出しているのを発見し、手当をかねて入浴すると、傷は意外に早く治り無事下山できました。これが湯の平温泉のはじまりと言われています。



◆滝谷森林公園

大自然の真っ只中にあり、一度に山と川を楽しめる恵まれた自然環境が最大の魅力。公園の横を流れる加治川は清らかで、釣りはもちろん河原で水遊びや鉱石探しも楽しめます。小さな子ども向けに園内に人工の小川も流れています。宿泊棟やキャンプ場も備わっており、空気が澄んでいるので夜空の美しさも格別です。



◆紅葉の名所「内の倉ダム」・「加治川治水ダム」

内の倉ダム：日本国内に13しかない、ダムの中に空洞がある「中空重力式ダム」で、二王子岳を望むことができます。



加治川治水ダム：治水調節用ダムで普段は水を貯めないため、ダム湖内公園にはキャンプ場やバーベキュー広場があります。



◆歴史探勝のサイクリングロード

旧国鉄赤谷線の廃線跡地を利用した自転車歩行者道です。四季折々の景観を楽しみながらサイクリング・ランニング・散歩など楽しめます。



◆送迎ボランティアが独自に当地区で活動中！！

赤谷地区では、買い物や通院に支障をきたしている人に対し、毎週金曜日に自宅から診療所とバス停までの送迎を地域のボランティアにより行われています。

平成21年より開始され、年間約200人の利用があり地域にとっては、なくてはならない交通の手段となっています。



◆地域活性化に向けた地域おこし協力隊

「地域おこし協力隊」とは、人口減少や高齢化などに悩む地方自治体が、地域外の人材を受け入れ、その定住を支援しながら、農林漁業への協力や地域住民の生活支援などを通じて、地域の維持・活性化に貢献する制度です。平成28年度より2名の協力隊が地域に入り活動を開始しました。



◆「あかたにの家」OPEN

平成26年度末に閉校した赤谷小学校が、新たに「あかたにの家」として平成28年7月9日にオープン。「あかたにの家」は宿泊を通して健全な青少年の育成や赤谷地域の活性化を図ることを目的として、主に青少年団体の合宿やキャンプなどの体験活動に利用できます。野外炊事場・浴室・宿泊室も完備。今後もここを拠点とした活動が期待されます！！





(3) 赤谷地区の主な年表



豆知識 ~赤谷地名の起源について~

- ①赤谷には赤谷石が産するから
- ②赤谷には褐鉄鉱が産するから
- ③茨城県赤谷城主の一族が移住したことにより

時代	年代	出来事
平安時代	778年 ～(赤谷起源)	<ul style="list-style-type: none"> 778年 上赤谷部落ができた。(赤谷左衛門尉という武士がきて村を開いたなど色々な諸説がある。) 1160年 平安貴族、平保正、六戸の従者ととも赤谷に住み着いたという説もある。
鎌倉・室町時代	1201年頃	<ul style="list-style-type: none"> 1201年 城長茂、京都で兵を上げ捉えられ首を討たれる。城資盛も佐々木氏に滅ぼされる。 承久の変で攻めてきた朝廷の軍を加地庄佐々木氏が打ち破り、京へ攻め上る。
戦国時代	1500年頃	<ul style="list-style-type: none"> 赤谷の小田切氏、川東の竹俣氏などが上越の上杉氏と戦った時に応援。 上杉氏、新発田を攻めるためまず赤谷を攻める。(赤谷城主小田切三河守、家来と共に関が峰城で戦い滅ぼされる)
江戸時代	1603年～	<ul style="list-style-type: none"> 1658年 加治川で大水害が起き村民は今の上赤谷へ移り、小柴氏を中心に赤谷用水路を作り管生野新田を開発。 1677年 滝谷より十二戸引越して滝谷新田部落をつくる。
明治時代	1868年～	<ul style="list-style-type: none"> 会津戊辰戦争、赤谷でも激しく戦われ会津軍敗退、白虎隊の悲劇、官軍の勝利。  <ul style="list-style-type: none"> 1869年版籍奉還、藩候溝口直正が新発田藩知事となる 赤谷が新潟県に所属する。 赤谷郵便局開局 常盤新田に「常盤校」開校。 上赤谷新坂上に「赤谷校」が開校。 滝谷と常盤新田が合村し滝谷村となる。 草倉銅山会社が赤谷炭山から石炭を掘り始める。 赤谷村と滝谷村が合村し赤谷村ができる。 赤谷鉱山を官営八幡製鉄所が三菱会社より買収。鉱山開発工事が始まる。 上赤谷大火で赤谷部落や赤谷尋常小学校が焼ける。 明治後半満州からの鉱石輸入により赤谷鉱山開発中止。

時代	年代	出来事
大正時代	1912年～	<ul style="list-style-type: none"> 政府が再び赤谷鉱山開発工事を開始。 鉱山開発のため、新発田―蕘立沢 23kmに鉄道が敷かれる。 赤谷校に高等科ができ「赤谷尋常高等小学校」となる。 赤谷校と滝谷校が統合し、校舎を現在の「あかたにの家」に移し改築。 1925年国鉄赤谷線開通
戦前の昭和	1926年～	<ul style="list-style-type: none"> 東赤谷に「赤谷温泉ホテル」を建設。 上赤谷新田町に簡易水道ができる。 日鉄鉱業株式会社が赤谷鉱山の開発工事を始める。 国鉄赤谷線が東赤谷までのびる。 赤谷鉱山に朝鮮人 400人、中国人 200人強制労働に連れてこられる。
戦後の昭和	1946年～	<ul style="list-style-type: none"> 新発田にも占領軍が来る。 東赤谷の朝鮮人や中国人が故国に帰る。 新制赤谷中学校ができるが小学校と一緒に(男女共学)。 赤谷の水道完成。 1955年新発田市は五十公野村・米倉村・赤谷村・川東村・菅谷村・松浦村と合併し人口7万人の市となる。 1962年赤谷炭山が完全閉山。 国鉄赤谷線の廃止の動きが出るが、反対運動。 内の倉ダムが完成。 赤谷中学校が閉校し東中学校に統合 1974年赤谷小学校創立100周年記念式典が行われる。 1977年赤谷鉱山が閉山。 1984年国鉄赤谷線が廃線。
平成	1989年～	<ul style="list-style-type: none"> 1993年旧国鉄赤谷線が「歴史探勝の道」としてサイクリングロード開通。滝谷森林公園が開園。 2015年赤谷小学校閉校。  <ul style="list-style-type: none"> 2016年旧赤谷小学校跡地に「あかたにの家」開設。

(資料：赤谷小学校創立百周年記念 赤谷の歴史 復刻版より)

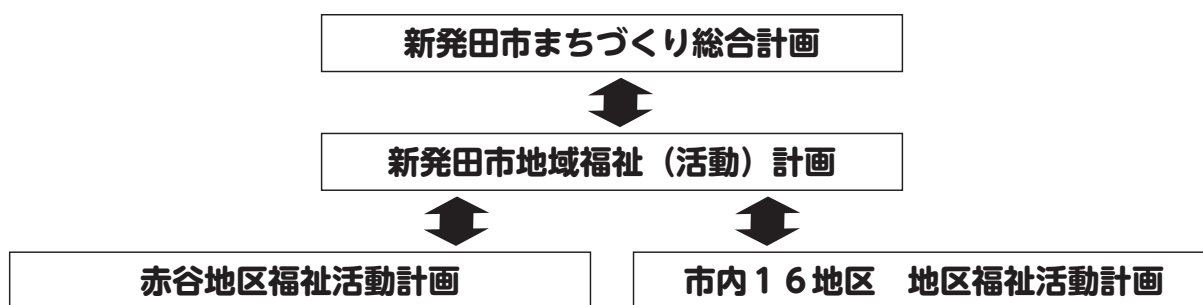
2 計画の概要

(1) 赤谷地区福祉活動計画とは

少子高齢化社会を迎え、社会全般が大きく変化している中、行政への市民要望は年々増大していますが、一人ひとりに適したきめ細かなサービスを行政だけの力で提供することは困難になっています。このため、市民が自立した生活をめざし、地域での福祉を「支え合い」によるシステムという新たな視点で再構築し、維持していく仕組みをつくりあげることが重要となっています。

新発田市は「まちづくり総合計画」の中で、目指すべき将来都市像を「住みよいまち日本一健康田園文化都市・しばた」としています。その基本理念の下に、新発田市地域福祉（活動）計画は、「しばたに住んで良かった。」と市民が言えるよう、地域において市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関が相互に知恵を出し、力を合わせながら、高齢者や障がい者など支援が必要な市民が地域で安心して生活を送ることができる“共生社会”の実現を目指しています。

「赤谷地区福祉活動計画」は、地域の中で問題となっていること、困っていることなどを「地域のみんなの問題」として捉え、話し合い、取り組んでいくための指針であり、「新発田市まちづくり総合計画」、「新発田市地域福祉（活動）計画」に基づいた計画です。



※地域福祉とは、「適切な地域を単位として」「地域住民が主体となり」「地域課題の解決に向けて」「自治会と行政なども含め」「お互いに知恵を出し合い」「支え合っていく」ことです。

(2) 赤谷地区福祉活動計画の目的

赤谷地区に対する想いを語り合うことを通して、「地域の現状や課題」、「地域でできること」、「自分でできること」、「こうなったらいいな」などを一緒に考え住民主体の地域福祉づくりを市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などと連携して進めていきます。高齢者や障がい者など支援の必要な市民が地域（赤谷地区）で安心して生活できる“共生社会”の実現をみんなで目指します。

(3) 赤谷地区福祉活動計画の推進に向けて

計画づくりの過程を通じ、みんなで同じ方向を向いて協働していくために、地域の課題や目標を共有しましょう。その上で、赤谷地区の中長期的な目標として位置づけ、市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などが連携して取組を進めていくことが重要です。

(4) 赤谷地区福祉活動計画づくりの意義

赤谷地区福祉活動計画を地域のみなんで作ることで

- ①地域の課題や目標を関係者で共有し、同じ方向を向いて協働することができます。
- ②計画を公表することで、地域の福祉活動について、広く地域住民の理解と協力が得られます。
- ③中長期的な見通しを持って、段階的・継続的に取り組んでいくことができます。
- ④活動の優先順位や重点がはっきりします。
- ⑤活動がうまく展開されてきたか振り返り、次の課題を明らかにすることができます。
- ⑥計画づくりの過程で人が育ち、地域の関係者の連帯も強くなります。

みなんで作る赤谷地区福祉活動計画



3 地域の魅力と現状

赤谷地区福祉懇談会で見てきた地域の魅力と現状

赤谷地区に住んでいる子どもから高齢者まで、すべての住民が地域においていきいきとした生活を送ることは赤谷地区住民のみんなの願いです。

この願いの実現に向けて、市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政、関係機関などが協働しながら、みんなで赤谷地区福祉活動計画を策定しました。

計画策定の具体的作業として、平成28年8月～平成28年11月まで3回にわたり福祉懇談会を開催し、地域の現状や福祉に関わる様々な課題について、話し合いをまとめました。

(1) 地域の魅力について

① つながりについて

- ・ 田んぼや畑で人に会えば、あいさつなどコミュニケーションを図っている
- ・ 人と人との交流が頻繁に行われている

② 地域活動について

- ・ 春と秋に森林公園の神社でお祭りがある
- ・ 地域のお祭りなど伝統行事を大切にしている
- ・ 診療所までのボランティア送迎がある
- ・ 消防団や自主防災が協力して活動している

③ 社会資源について

- ・ 紅葉がきれいでサイクリングに良い
- ・ 地区の各所に清水が湧いている

④ 地域性について

- ・ 人が明るい
- ・ 自然が豊かである
- ・ 地域を大切にしている
- ・ 受け入れ体制など寛容的である

(2) 地域の現状について

① つながりについて

- ・ 高齢化で集まりが悪い
- ・ 地域行事が減った（さいの神、盆踊り等）
- ・ 保育園や学校がなくなり、若い人が町へ出ていく

② 地域について

- ・ 空き家が増えている
- ・ 一人暮らしや高齢者世帯が多い
- ・ 猿などが多く、作物を荒らす

③ 生活について

- ・ 地元に店がない
- ・ 交通の便が悪い
- ・ 冬の雪下ろしや除雪が大変である

④ 後継者不足について

- ・ 消防団も高齢化で成り手が少ない



4 福祉活動計画

赤谷地区福祉活動計画

(1) 基本理念 (スローガン)

赤谷地区に住む住民一人ひとりが地域活動に積極的に関わり、お互いが個人として尊重しあい、生きがいや充実感をもちながらその人らしい生活ができることを目指していくことが大切です。こうしたことから次のとおり計画の基本理念を定めました。

自然の恵みを大切に 伝統を受け継ぐ赤谷地区



(2) 基本目標

福祉懇談会で話し合われた地域の現状や福祉課題に基づき、計画の基本目標を次のとおりとしました。

基本目標 1	声かけ・あいさつで優しさあふれる助け合いの地域づくり
基本目標 2	豊かな恵みを守り自然を活用した地域づくり
基本目標 3	伝統文化を引き継ぎ次世代につなぐ地域づくり
基本目標 4	新たな魅力を発見し地域の活性化を目指した地域づくり
基本目標 5	誰もが主役になり人が集まる地域づくり
基本目標 6	地域の情報を発信し人と人をつなぐ地域づくり

(3) 計画の実現に向けて

福祉懇談会では
目標達成の具体的な取組の例 → **自分達でどんなことができるのか**
 アイデアを出し合いました。



- ◆基本目標 = こんな地域であつたらいいな
- ◆実施項目 = 私たちにできること（取組の例）

基本目標 1 声かけ・あいさつで優しさあふれる助け合いの地域づくり

目 標	実施項目（取組の例）
声かけ合い あいさつではじまる 助け合い活動	<ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動など地域で優しい気持ちを育む ・あいさつ、声かけを積極的にする ・思いやりをもった行動をする ・冬期間の除雪などを地区で助け合い、支え合える体制づくりを行う ・送迎ボランティアなどを行う

基本目標 2 豊かな恵みを守り自然を活用した地域づくり

目 標	実施項目（取組の例）
豊かな恵みを守り 自然と共に生きよう	<ul style="list-style-type: none"> ・湧水などきれいな水を守る ・焼峰山、紅葉、新緑、山菜、雪を活かした取組を計画する ・内の倉ダムや加治川治水ダムを活かした取組を計画する

基本目標 3 伝統文化を引き継ぎ次世代につなぐ地域づくり

目 標	実施項目（取組の例）
伝統文化を引き継ぎ 人から人へつなごう	<ul style="list-style-type: none"> ・百万遍、どんつき祭り、盆踊り、神楽など伝統を守る ・夏祭り（どじょう祭り）など継続する ・御不動様、山城など歴史を伝える ・伝統行事を継承する ・祭りなど地域行事を復活させる ・野郎餅など伝統料理を継承する ・焼日などを行い防犯、防災意識を高める

基本目標 4 新たな魅力を発見し地域の活性化を目指した地域づくり

目 標	実施項目（取組の例）
魅力を再発見し 地域の活性化を目指そう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地産地消と伝統を融合した取組を計画する ・ あかたにの家や滝谷森林公園を活かした取組を計画する ・ 新たな人材を受け入れコミュニティ活動の活性化を図る ・ 地域の農産物を利用した直売所をつくる ・ 伝統を伝えられる場所をつくる ・ 地域おこし協力隊とともに地域の活性化を図る

基本目標 5 誰もが主役になり人が集まる地域づくり

目 標	実施項目（取組の例）
誰もが主役 人が笑顔で集まる場をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤谷地区全体の取組を検討する ・ 婚活情報などを必要な方に届ける ・ 婚活の取組を検討する ・ 空き家の活用を目指し移住定住やUターンなど受け入れ体制を整える ・ ふるさとの魅力を伝え人が集まる取組を検討する ・ 若い人が働く産業（仕事）や環境を検討する ・ 世代間交流の場をつくる

基本目標 6 地域の情報を発信し人と人をつなぐ地域づくり

目 標	実施項目（取組の例）
地域の情報発信 人と人が出会う機会をつくろう	<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットの発信やホームページの作成を行う ・ さまざまな地域のイベント情報や歴史を発信する ・ あかたにの家のイベントを活用した取組を行う ・ 赤谷地区住民と地区以外の人との交流を検討する ・ 赤谷地区以外の人への受け入れや協働の体制づくりを行う

5 策定方法

(1) 赤谷地区福祉活動計画策定団体等

赤谷地区福祉活動計画は、赤谷地区自治会連合会を中心に自治会の代表者、民生委員児童委員、保健自治会、農家組合、消防団、米倉小学校PTA、わらび学級、新発田南地域包括支援センターなどの人達が福祉懇談会を開催し、地域の現状及び課題を把握して、基本目標、具体的な取組事例として策定しました。

●赤谷地区自治会連合会

1	上赤谷第一区
2	上赤谷第2区
3	滝谷新田区
4	滝谷区

- 赤谷地区自治会連合会
- 自治会の代表者
- 民生委員児童委員
- 保健自治会
- 農家組合
- 消防団
- 米倉小学校PTA
- わらび学級
- 新発田南地域包括支援センター（赤谷地区担当）



(2) 赤谷地区福祉活動計画策定経過

年月日	会議等	内 容
平成 28 年 7 月 7 日	打合せ (中央公民館 赤谷分館)	・地域福祉懇談会について 赤谷地区自治会連合会役員と事前打合せ (参加者 6 名)
平成 28 年 7 月 22 日	打合せ (中央公民館 赤谷分館)	・地域福祉懇談会について 赤谷地区自治会連合会役員と事前打合せ (参加者 7 名)
平成 28 年 8 月 22 日	各地区 第 1 回福祉懇談会開催案内 (全戸配布)	
平成 28 年 8 月 29 日	滝谷地区福祉懇談会 (農村婦人の家)	・「滝谷地区福祉活動計画」勉強会 ①私たちの地域のいいところ ②身近なところで困っていること ③こんな地域であつたらいいな ④私たちにできること (参加者 13 名)
平成 28 年 9 月 7 日	滝谷新田地区福祉懇談会 (ふれあい交流センター)	・「滝谷新田地区福祉活動計画」勉強会 ①私たちの地域のいいところ ②身近なところで困っていること ③こんな地域であつたらいいな ④私たちにできること (参加者 16 名)
平成 28 年 9 月 9 日	上赤谷地区福祉懇談会 (中央公民館 赤谷分館)	・「上赤谷地区福祉活動計画」勉強会 ①私たちの地域のいいところ ②身近なところで困っていること ③こんな地域であつたらいいな ④私たちにできること (参加者 22 名)
平成 28 年 10 月 18 日	第 1 回赤谷地区福祉懇談会 (中央公民館 赤谷分館)	・グループワーク 各地区の振り返り 地区の現状と課題の整理 計画の基本目標の検討 (参加者 27 名)
平成 28 年 11 月 1 日	第 1 回赤谷地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成 28 年 11 月 16 日	第 2 回赤谷地区福祉懇談会 (中央公民館 赤谷分館)	前回の振り返り及びまとめ 基本目標の検討 スローガンの検討 (参加者 24 名)
平成 28 年 12 月 1 日	第 2 回赤谷地区福祉懇談会 実施報告 回覧	
平成 28 年 12 月 7 日	第 1 回編集委員会 (中央公民館 赤谷分館)	・赤谷地区福祉活動計画の基本理念、基本目標、 目標に向けた実施項目などの検討 (参加者 16 名)
平成 29 年 2 月 22 日	第 2 回編集委員会 (中央公民館 赤谷分館)	・赤谷地区福祉活動計画 (案) 修正・確認等 (参加者 13 名)
平成 29 年 3 月		・赤谷地区福祉活動計画完成

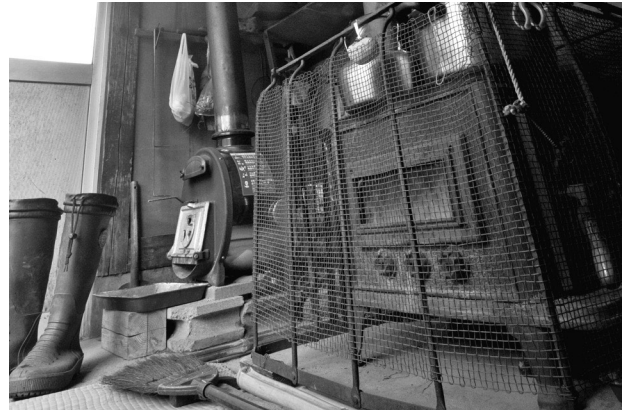
(3) 赤谷地区福祉懇談会で出された意見

グループに分かれて、地域の現状や課題を共有し、地域の皆さんで支え合いの知恵を出し合いました。

懇談会で皆さんが話し合われた意見をご紹介します。(グループごとに掲載しています)

1 私たちの地域のいいところ

- ・春と秋に森林公園の神社にお祭りがある
- ・週3回、移動販売の八百屋さんが来てくれる(食料品全般ある)
- ・週1回、野菜を売りにくる方がいる(冬季は休み)
- ・週1回、JAが五十公野方面へバス送迎してくれる
- ・ボランティア送迎があり、診療所等へ行くのに利用している(利用者数は20~30人)
- ・自分で畑をしている
- ・冬、屋根の雪下ろしをしてくれる人がいる(有料)
- ・700年続いている「百万遍」の伝統行事を大切にしている
- ・市とは別日程でクリーン作戦を3地区でやっている(子どもも参加)
- ・保健自治会は、敬老会のお手伝いや料理講習会で習得した料理を地区の方に教えている
- ・地区の人が明るい
- ・診療所までのボランティア送迎があり、利用者が多い
- ・回覧板がスムーズに回っている
- ・田んぼや畑で人に会えば、あいさつをしたり話をしたりする
- ・野菜のおすそ分けがある
- ・火災報知器を地区全体でつけている
- ・高齢化は進んでいるが消防団がある
- ・日中の火災の初期対応のために自主防災がある
- ・ダムのあたりは、紅葉がきれいでサイクリングに良い
- ・御不動様の前に「景勝清水」がある



- ・自然に人を見守り、心配してくれる方がいる
- ・自然が豊か、夏は涼しい
- ・山菜がほとんど採れる
- ・700年以上続いている、どんづきまつりや夏祭りがある
- ・公民館が残っていて色々な催し物やレクリエーションをしているし、何か困ったら行く
- ・ボランティア送迎がある
- ・医者が毎日、診療にきてくれる
- ・回覧板がスムーズに回っていて情報がいろいろ入ってくる
- ・家で仲の良いグループと月1回お茶飲みをしている
- ・地区の中で知らないことがない
- ・まとまりが良く、行事は協力してやっている
- ・消防団や自主防災が協力して活動している
- ・除雪がうまい
- ・地域の人が、地域の道や高齢者宅の玄関先を除雪してくれる
- ・買い物等のためのバス停までの送迎ボランティア



2 身近なところで困っていること

- ・ 空き家が増えている
- ・ 高齢者の一人暮らしが増えている
- ・ 猿が多くて畑が荒らされる（猿は、昭和52年頃から来るようになった（現在は30～40匹））
- ・ 路線バスの値段が高く、バスに誰も乗っていない
- ・ ふれあいルームがなくなった
- ・ ゲートボールチームがなくなった
- ・ 街灯がなく夜道が危険なので、親がバス停まで子どもを迎えに行く
- ・ 回覧板を断られる方がいる
- ・ 地区の将来が心配である
- ・ 高齢者が集まって話をするなどのコミュニケーションがなくなった
- ・ 除雪は昔に比べて良くなったが、玄関から道路までは自分でやっている
- ・ 大きい道路は早朝に除雪車がくるが、細い私道は除雪機を借りて区長が一人で除雪をしている
- ・ 車の通りが少ないため、冬の道路は雪で道がなくなる
- ・ 屋根の雪下ろしは余りため過ぎず、こまめにやる必要があるため一日に何回もしている
- ・ 保育所がなくなり、お神輿の祭りがなくなった
- ・ 消防団も高齢化で成り手が少ない（若い人が入らない）



- ・ 防災訓練をしていない
- ・ 3、4年前から老人クラブの活動を休止した
- ・ 老人クラブの休止により、地域行事が減ってしまった
- ・ 一人暮らしや高齢者世帯が多くなってきた（大家族が減った）
- ・ 高齢化で集まりが悪くなった
- ・ さいの神をやっていない
- ・ 盆踊りがなくなった
- ・ 猿が作物を荒らす
- ・ 幼稚園や小学校もないので、若い人は町へ出ていく
- ・ 道路の舗装が悪い
- ・ お店がなく移動販売は値段も高く、品物が良くない
- ・ 空き家がある
- ・ 冬の雪下ろしは、市からの助成は増えたが負担は大きい
- ・ 高齢者の家の玄関先まで除雪して欲しい
- ・ 交通の便が悪い（高齢者は大変、バス代は高い）
- ・ 地元に店がない
- ・ 冬の雪下ろしが大変
- ・ 車がスピードを出してくるし、高齢者の斜め横断も危ない
- ・ 猿が作物をとる
- ・ 若者が少なく高齢者が多く、人口も減っている
- ・ 祭りの維持が不安である
- ・ 退職者を呼び戻したいが、環境づくりや方法が分からず困る
- ・ 嫁、婿がほしい
- ・ 一人暮らしの高齢者の除雪に困っている（特に女性が多い）
- ・ 豪雪地帯の除雪の助成を増やしてほしい
- ・ 「あかたにの家」が少し遠い
- ・ 市の統一日とは別日程でクリーン作戦をしなければならない



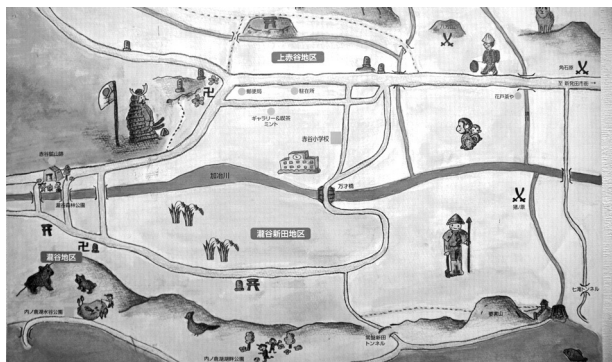
3 こんな地域であつたらいいな

- ・コミュニティバスが欲しい
- ・老人クラブが復活できたらいいな
- ・「あかたにの家」が個人利用できればいいな
- ・「あかたにの家」の施設ができたので赤谷の魅力を発信していけたらいいな
- ・雪下ろしを地区で助け合い、支え合えるような体制ができればいいな
- ・退職者が戻ってくるような環境
- ・若い人が入ってくる環境ができるといい
- ・若い人が働く産業（仕事）ができるといい
- ・地域の人と地区外の人との同年代交流や、協力できる体制ができるといい
- ・地域おこし協力隊からの活性化（永住できるくらいの）
- ・地域の農産物を利用した販売所や、赤谷の伝統を伝える場所ができればいい
- ・「あかたにの家」が地域の活性化に使えたらいいな
- ・一人暮らしの高齢者が冬場は共同生活ができるような場所があつたらいいな（例えば「あかたにの家」の利用など）
- ・若い人が年配の方から知識を学び、うまく連携できればいい
- ・世代間交流ができるといい



4 私たちにできること

- ・回覧板を回している
- ・自分の食べる野菜は自分で作る
- ・ウォーキングをしている
- ・地域行事を復活させたい（さいの神や祭り等）
- ・伝統行事を若い人に継承していきたい
- ・ネットワークを利用し、ホームページを使って地区の行事や歴史などを発信していきたい



6 参考資料

「新発田市地域福祉（活動）計画」の基本理念と体系

1 基本理念

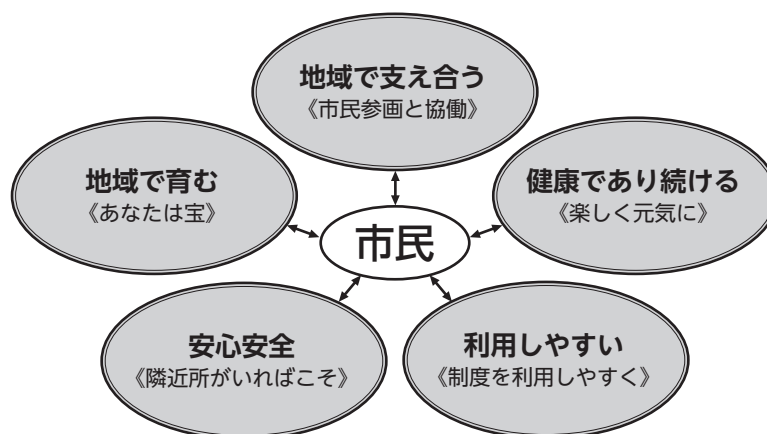
新発田市に暮らす子どもや若者から高齢者までの誰もが、新発田市の歴史と風土を大切に、新発田市民であることを誇りに思う新たな福祉の地域づくりをめざし、新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念を次のものとします。

～新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念～

すべての市民が住みなれた地域でともに支え合い
安心して暮らせる福祉の地域づくり

※「出来るものならば、ずっと育ってきた地域で自立して生きていきたい。」だれもが望む幸せとは、このような当たり前のことではないでしょうか。

地域福祉（活動）計画は、顔の見える一定の地域を面として、「地域の市民力」「地域の資源力」「行政力」という3つの力を活かし、地域に住んでいる住民や地域で活動している民間団体や事業所が、社会生活を送るうえでお互いに支え合うというわかりやすい仕組みを、行政と協働により住民自ら創り、自ら地域の実態に即した活動を展開するためのものです。そのためには、「地域のことは地域で」（下図参照）を基本として、地域に暮らすだれもが笑顔に包まれ、自分らしく健康で自立した生活を送り、生きること喜びを見出していける地域社会の実現を目指します。



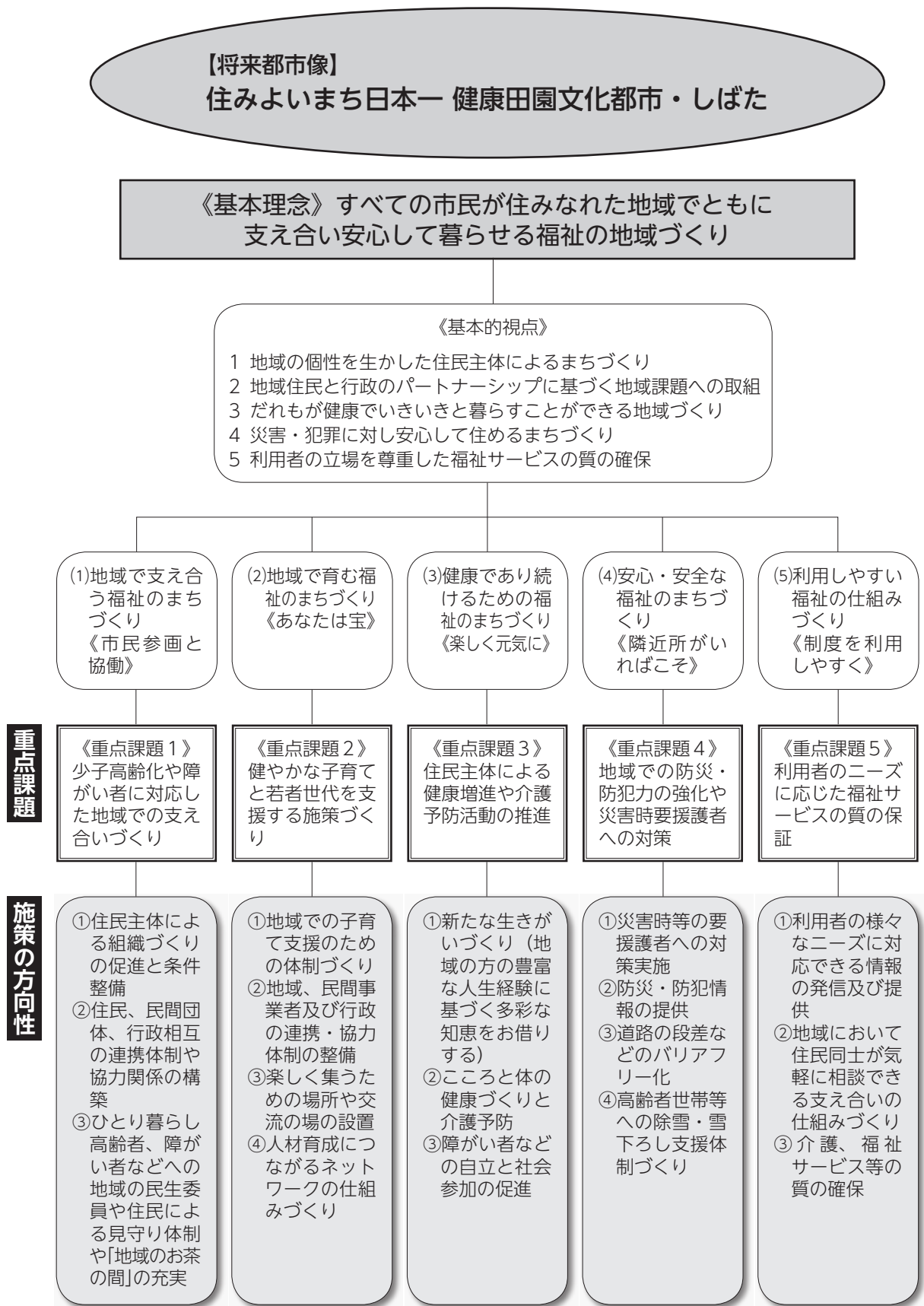
新発田市地域福祉（活動）計画は、地域福祉をより効果的に推進するため、市が策定する「地域福祉計画」と社会福祉協議会が住民とともに策定する「地域福祉活動計画」を一体化して策定したものです。新発田市及び新発田市社会福祉協議会のホームページに掲載されております。

問合せ先：新発田市社会福祉課
Tel 22-3030

新発田市社会福祉協議会
Tel 23-1000

2 計画の体系

新発田市は、以下の基本理念に基づき、それぞれの重点課題について、施策を実施しながら計画の推進に取り組んでいきます。



**地域の全ての人が
自分らしく安心して暮らして
いける地域を目指して**

互いに支え合い、一人ひとりが自分たちのできる事を考え、地域福祉の基本的な考え方に基づいて、主体的に参加・協働する地域に向けて



第1回 赤谷地区福祉懇談会

日程 平成28年10月18日(火)
会場 中央公民館 赤谷分館
参加者 住民16人
市・社協・包括11人

- ①開会挨拶
赤谷地区自治会連合会 下野会長
- ②グループワーク
 - ・各地区の振り返り
 - ・地区の現状と課題の整理
 - ・計画の基本目標の検討
- ③事務連絡

ほっとけないの「気づき」を 伝える仕組みづくり

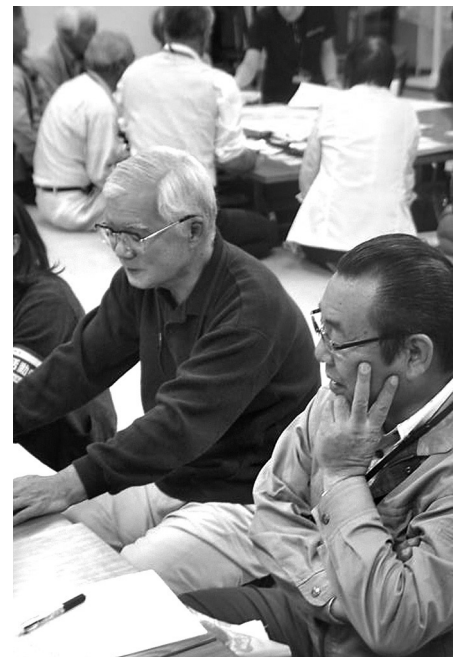
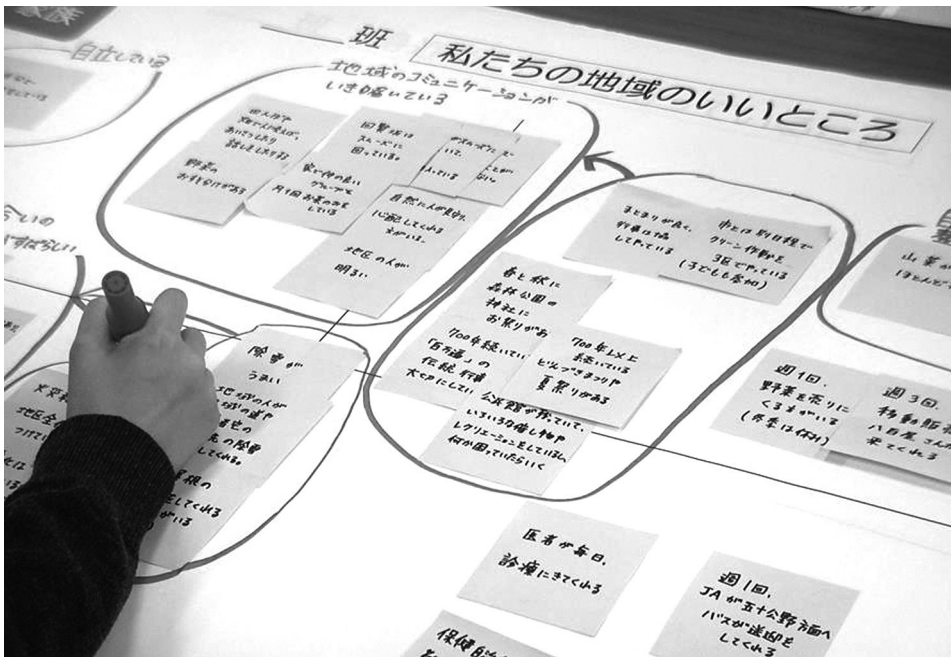
核家族化や少子高齢化によって「向こう三軒両隣」のような日本の古きよき伝統文化が姿を消しつつあります。

その結果、家族や地域とのつながりのカタチが変化し、地域の伝統文化や郷土愛も薄れ、地域資源が豊かであるにも関わらず継承が困難な状況になっています。

そのため“赤谷地区福祉懇談会”では、より多くの住民に地

域への関心を持ってもらい、顔の見える地域づくりを基盤に「気づき」を伝える仕組みを目指します。

第1回懇談会では、グループごとに各地区の懇談会で話し合われた4つのテーマ（地域の魅力・地域課題・これからの地域像・これから取り組めること）の内容を振り返りながら意見を整理し、会場全体で共有しました。



地域の魅力を再認識し 地域の課題を共有するために

第1回赤谷地区福祉懇談会では、住民16名の方々からご参加いただき、市職員5名、社会福祉協議会職員3名、南地域包括支援センター職員3名と一緒に赤谷区福祉活動計画の策定に向けて、グループワークを行いました。

グループワークでは、各地区の懇談会で洗い出された地域にある資源や課題、地域の現状を整理し、今後さらに住み良い地域に向けて、これからの地域像を参加者全員で共有しました。

グループワークの話し合いの中では、赤谷地区は「自然が豊か

「温かみのある地区」「歴史的価値のある伝統行事がある」「降雪量が多い」などの意見や「子どもの声が聞きたい」「世代間交流のある地域になったらいい」「地域の情報発信が必要ではないか」「地域の活性化を図りたい」など活発な意見交換がありました。

次回は、魅力あふれる赤谷地区を目指して、第1回懇談会のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら意見やアイデアを整理し、これからの地域の展望を話し合い、赤谷地区福祉活動計画の基本目標を検討します。



第2回赤谷地区福祉懇談会

日時 平成28年11月16日(水)
19時00分～20時30分
会場 中央公民館 赤谷分館

発行 赤谷地区自治会連合会 新発田市 新発田市社会福祉協議会
編集 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL 23-1000 FAX 26-3300

地域のSOSを 見逃さない つながりのある 地域をつくる

地域のつながりを実感できるように身近な地域で福祉活動を活性化し、新しい地域づくりを目指します



第2回 赤谷地区福祉懇談会

日程 平成28年11月16日(水)

会場 中央公民館 赤谷分館

参加者 住民14人

市・社協・包括10人

①開会挨拶

赤谷地区自治会連合会 下野会長

②グループワーク

- ・前回の振り返り及びまとめ
- ・基本目標の検討
- ・スローガンの検討

⑤閉会挨拶

赤谷地区自治会連合会 佐久間副会長

これからの地域を話し合い

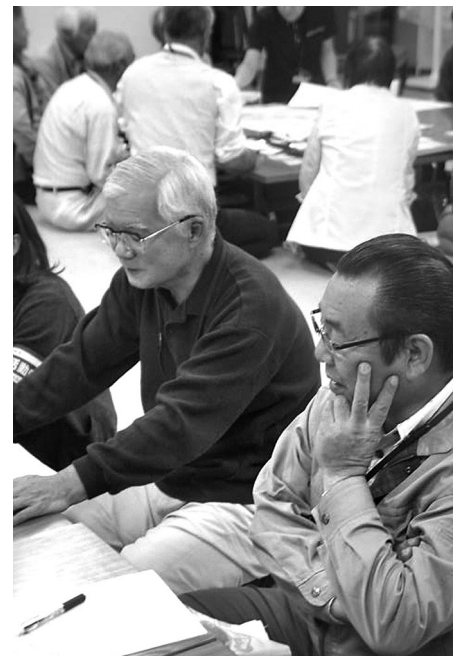
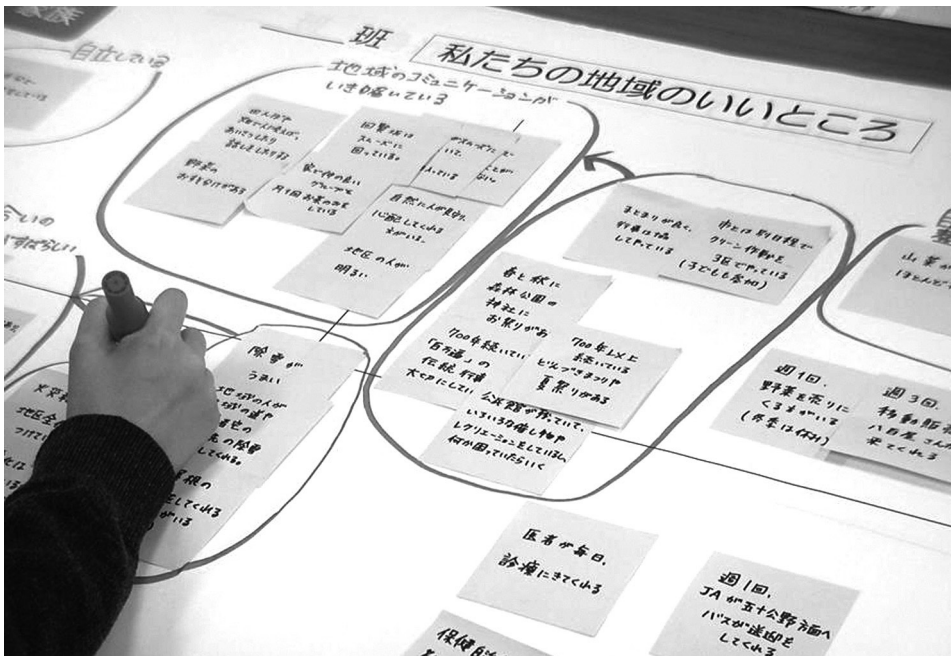
誰もが参加できる取り組みを目指して

ご近所の助け合いによって支えられてきた人々の暮らしが、生活の孤立化、複合的な課題を抱える世帯の増加、地域での連帯感の希薄化などが進み、制度の谷間にあって対応できない課題も多く生じてきています。

“赤谷地区福祉懇談会”では、地域の住民が主体となって地域での支え合いを図り、より一層の地域福祉活動の活性化を目指すことで、住み慣れた地域でこ

れまでの社会関係を維持しながら、誰もが生きがいを持ち、一人ひとりが役割を発揮する地域づくりに向けて力を合わせる必要があります。

第2回福祉懇談会では、第1回のグループワークで話し合われた内容を振り返りながら、整理したキーワードをもとに、赤谷地区福祉活動計画のスローガンや基本目標を検討しました。



人と人との「つながり」を地域に広げる あたたかい地域づくりを推進するために

誰もが住み慣れた地域の中で心豊かに安心して暮らすために、住民一人ひとりの努力（自助）、住民同士の相互扶助（共助）、公的な制度（公助）の連携によって解決する取り組みが必要です。

第2回赤谷地区福祉懇談会では、住民14名の方々からご参加いただき、市職員5名、社会福祉協議会職員3名、南地域包括支援センター職員2名と一緒に赤谷地区福祉活動計画の策定に向けて、それぞれの立場を越え、これからの赤谷地区について参加者全員で話し合いました。

赤谷地区福祉活動計画のローガンを「自然の恵みを大切に 伝統を受け継ぐ赤谷地区」と掲げました。

また、基本目標のキーワードとして、「助け合い」「自然の恵み（環境）」「伝統」「地域活性化（コミュニティ・世代間交流・地域産業）」「少子高齢化」「情報発信」など提案されました。

今後、編集委員を中心に福祉懇談会で話し合われた内容を集約し、住民の福祉活動の指針“赤谷地区福祉活動計画”を策定いたします。



第1回赤谷地区編集委員会

日時 平成28年12月7日（水）
19時00分～20時30分
会場 中央公民館 赤谷分館

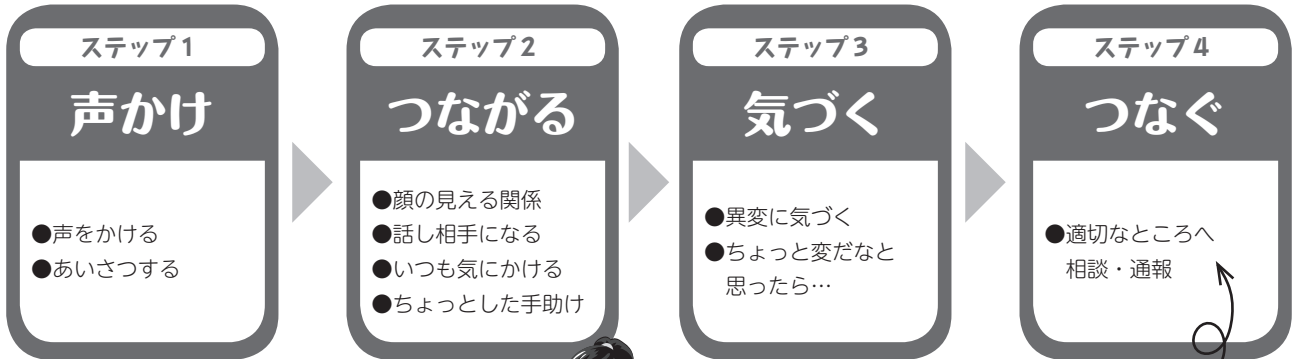
発行 赤谷地区自治会連合会 新発田市 新発田市社会福祉協議会
編集 新発田市社会福祉協議会 地域福祉課 TEL 23-1000 FAX 26-3300

地域の SOS ～ご近所の見守りのヒント～



見守りって何をすればいいの？

特別なことは必要ありません。あなたの周りの見守りが必要な人に目を配るだけでいいのです。そしてできたら、次↓のステップをすこし意識してみましょう。



「あいさつ」だって立派な見守り♡
まずはここから始めましょう。

笑顔でね♪

警察？救急？
地域包括支援センター？
市役所？
民生委員？

いつもと様子が違いますか



あなたの周りのひとり暮らし高齢者等にすこし関心を持ってみてみましょう。
あれ？いつも（これまで）と違う、ちょっと様子がおかしいと感じたら…
それは、「その人」の身に起こっている「何かの問題」のサインの可能性があります。あなたの「気づき」が「その人」を救うことにつながるかもしれません！

check !

	気になるサイン
家の様子	<input type="checkbox"/> 新聞や郵便物がたまっている
	<input type="checkbox"/> 電気がつかない・つきっぱなし
	<input type="checkbox"/> 洗濯物が干しっぱなし
	<input type="checkbox"/> 家の中から大きな声や激しい泣き声などが聞こえる
	<input type="checkbox"/> 見慣れない業者が頻繁に出入りしている
	<input type="checkbox"/> 家に訪問販売品があふれている
本人の様子	<input type="checkbox"/> 最近、姿を見かけなくなった
	<input type="checkbox"/> 少しもの忘れが目立つ
	<input type="checkbox"/> 季節に合わない服装をしている
	<input type="checkbox"/> 通帳や財布がないと頻繁に騒ぐ
	<input type="checkbox"/> 話のつじつまが合わない
	<input type="checkbox"/> 表情が暗い、ふさぎ込んでいる
	<input type="checkbox"/> 不自然な傷やあざがある

便利帳

健康に関すること

内 容	問合せ先	電話番号
地区の診療所	赤谷診療所 (斎藤医院)	28-2722
休日・夜間の急病に関すること	新発田地区救急診療所	23-8350
健康全般に関すること	新発田市 健康推進課	22-3030 (代表)
心の健康や悩みの相談に関すること	新発田市 健康推進課	28-9213
	新発田保健所	26-9133
	こころの相談支援ウイング	28-3355

高齢者・障がいに関すること

内 容	問合せ先	電話番号
高齢者全般及び 介護保険制度に関すること	新発田南地域包括支援センター (赤谷地区担当)	24-1111
	新発田市 高齢福祉課	22-3030 (代表)
後期高齢者医療制度に関すること	新発田市 保険年金課	28-9312
障がい全般に関すること	緑風園相談室	26-8822
	こころの相談支援ウイング	28-3355
	新発田市 社会福祉課	28-9223
障がい者の就業・生活に関すること	障がい者就業・生活支援センターアシスト	23-1987
成年後見制度に関すること	新発田市成年後見センター	20-8988
	新発田市 高齢福祉課・社会福祉課	22-3030 (代表)

子どもに関すること

内 容	問合せ先	電話番号
児童や子育て全般に関すること	新発田市 こども課	22-3030 (代表)
	新発田児童相談所	26-9131

そ の 他

内 容	問合せ先	電話番号
仕事や生活の困りごとに関すること	新発田市 社会福祉課	28-9221
生活保護に関すること		
生活福祉資金に関すること	新発田市社会福祉協議会	23-1000
ボランティアに関すること		
ニート・ひきこもりの社会参加に関すること		
ニート・ひきこもりの就労相談に関すること	下越地域若者サポートステーション	28-8735
地域の活動交流施設	中央公民館 赤谷分館	28-2341
地域の治安に関すること	新発田警察署 赤谷駐在所	28-2540

赤谷地区編集委員		
No.	所 属	氏 名
1	上赤谷第一区	下野 勇
2	上赤谷第一区	小柴喜伊智
3	上赤谷第一区	関矢 悦子
4	上赤谷第一区	東城 浩
5	上赤谷第2区	佐久間春喜
6	上赤谷第2区	牧野 和夫
7	滝谷新田区	佐久間 新
8	滝谷新田区	阿部 弥
9	滝谷新田区	杉原 喜重
10	滝谷区	阿部 庄三
11	第五地区民生委員児童委員協議会	杉原 智
12	第五地区民生委員児童委員協議会	中村 悦子





～ みんなでつながる福祉のまちづくり ～

編集：赤谷地区編集委員会・赤谷地区自治会連合会
新発田市・社会福祉法人 新発田市社会福祉協議会

発行：平成 29 年 3 月
新発田市

〒 957 - 8686 新発田市中心部 3 丁目 3 番 3 号
社会福祉法人 新発田市社会福祉協議会

〒 957 - 0054 新発田市本町 4 丁目 16 番 83 号